

行 動 す る 知 性 。



八王子市中央図書館 10代向けフリースペースの企画と実践

小山憲司 (koyama@tamacc.chuo-u.ac.jp)

中央大学文学部

2024年11月1日
@八王子市中央図書館

目次

- 概要
- 検討の経緯
- 企画と実践
 - ワークショップ（2023年夏）
 - 「10代のためのフリースペース」
 - ワークショップ（2023年秋）
 - ワークショップ（2023年秋）および「10代のためのフリースペース」の観察から見たこと
 - 図書館の今後の検討課題
- まとめ

概要

(1) 目的

- 若年層（高校生・大学生を中心に）が利用したくなる図書館像を
探る

(2) 方法

- 中央図書館の中庭や展示室を実際に使った「ポップアップ・ライ
ブラリー」の企画・実践
- 大学生による企画・実現方法の検討
- 高校生を巻き込んだワークショップの開催

検討の経緯

年月日	活動内容
2023年5月18日	共同研究2023年度第1回打合せ
5月26日	「（仮称）ポップアップ・ライブラリ・プロジェクト（PULP）」第1回打合せ
6月29日	PULP第2回打合せ
7月27日	大学生による図書館見学（武蔵野プレイス、多摩市立中央図書館）
8月15日	PULP第3回打ち合わせ
8月20日	<u>ワークショップ初日</u>
8月27日	<u>ワークショップ2日目</u>
9月18日	PULP第4回打合せ
11月22-26日	<u>「10代のためのフリースペース」開設</u>
11月23日	<u>ワークショップ第2弾</u>
2024年3月26日	PULP第5回打合せ
6月10日	PULP第6回打合せ
8月14-23日	「10代のためのフリースペース」第2弾 開設

ワークショップ（2023年夏）

日 時： 8月20日（日）14時から16時30分
8月27日（日）14時から16時30分

場 所： 八王子市中央図書館

目 的： 若年層にとっての居場所とはなにかを考える

参加者： 東京都立八王子桑志高等学校 3名
八王子学園八王子高等学校 2名
中央大学文学部 3名

ワークショップ（初日）

時間	活動内容
14:00-14:15	開会式 自己紹介
14:15-15:15	プロジェクトの概要 八王子市図書館の概要、 および中央図書館の現状 館内見学
15:15-15:25	休憩
15:25-16:25	ワークショップ「高校生に ための居場所とはなにか」
16:25-16:30	連絡事項

みなさんにとっての居場所はどこか

- ・ 誰かと一緒にいるときに選ぶ居場所
- ・ 一人のときに選ぶ居場所
- ・ その選択理由

	みんなと	一人のとき 7
場所	・ ファミレス ・ カフェ、喫茶店 ・ フードコート ・ 学食 ・ 空き教室 ・ コンビニの前	・ 人と適度な距離がとれる ➤ 仕切り ・ 他の人との干渉が起こらない ・ それぞれが気兼ねなく過ごせる ・ 聖域
目的、 得られること	・ おしゃべり、会話 ➤ 周りを気にしなくてもよい ・ 意外性 ・ 共感	・ リラックス ・ 安心感 ・ 集中する、熟考する、落ち着く ・ 開放感 ➤ 窓際 ・ 他人を感じる ➤ さみしい ➤ 人から見られているかもという感覚
1. 日常生活の中の居場所		
特徴的な事柄	・ 飲食 ➤ 必須 ➤ 必須ではないが長居するための理由になる ➤ 誘い文句になる	・ 音 ➤ BGM、音楽、雑音 ➤ 静かすぎると落ち着かない ・ 端っこ

項目	内容	2. 居場所の要素
1. 経済性	• お金がかからない	
2. 選択の自由度	• ふらっと立ち寄れる • 計画していなくても気軽に行ける	
3. 座る	• 「座る場所があるところは快適な場所である」 • 椅子でなくてもよいが、地べたはなし	
4. 音	• あり／なし • 静かすぎると落ち着かない • 音（楽）の趣味があわないことも • 音によってその場の雰囲気を作り出す	
5. 親しみ	• 経験、慣れ • 図書館は静かな場所というイメージ ➤ 娯楽要素、会話、イベント • 漫画スペース ➤ ソファ、くつろいだ姿勢、ごろごろ、雑誌	

ワークショップ（2日目）

時間	活動内容
14:00-14:10	初日のふりかえり
14:10-14:30	「図書館と居場所」報告（中央大学生） 海外の事例報告（小山）
14:30-15:40	グループワーク
15:40-15:50	休憩
15:50-16:25	発表、ディスカッション
16:25-16:30	閉会式

①居場所の条件、理想形を考える
②①を踏まえて、図書館の「展示室」
「中庭（光庭）」「エントランス」の
あり方を提案する。



条件

○：近い、安い、涼しい、入りやすい、長時間やっている、トイレがきれい

△：空いている、区切られている、自由

	現状	やりたいこと
展示室	スペースの無駄 アットホーム 入りにくい（隠れ家的） 天井が高い	立体作品の展示 付近の学校とコラボ 自習スペース 展示内容のアピール
中庭（光庭）	入れない 草	緑（整備のされた）のある場所で本を読む グループワーク（大きな椅子、机） 飲食可（自販機、屋台、キッチンカー） 足を伸ばせる椅子がほしい 寝られる（ベッド） 焚き火（キャンプ）
エントランス	広くてよい 散らかっている 暗い	絵を飾る 植物を置いてみる 暗さを生かす（星をたらすとか） ひとはこ展示

👉 班

	コンセプト	やりたいこと
展示室	賑やか	銭湯の休憩室みたいな （漫画、じゅうたん、机、座布団） コンセント 音楽（募集してみる） 飲食自由 暖色系照明 ボードゲーム ゴミ箱
中庭（光庭）	静的	椅子は色々用意 部活の発表 金魚とか生き物 漫画を持って行って読める 落ち着く用（展示室は賑やか過ぎる） 高低差をつくる イルミネーション 植物手入れのイベント
エントランス	入りやすい 新規に優しい	暖色の光ーやわらかい印象 床ーじゅうたん、色を変える（蛍光でひきつける） 分かりやすい案内（チラシ、館内案内、綺麗に置く）

「10代のためのフリースペース」

日時： 11月22日（水）～26日（日）

場所： 中央図書館地下1階 展示室

目的： 8月のワークショップで得た知見をもとに、図書館がポップアップで10代のための居場所をつくり、その反応をうかがう。

「10代のためのフリースペース」のコンセプト

項目	内容
1. 選択の自由度	• ふらっと立ち寄れる • 色々な椅子を置く • 色々な場を設ける ➢ 勉強できる場所、漫画などを読む場所など
2. 音	• 音楽を流す ➢ 音楽は部屋の奥から空気として流せるように設置
3. 親しみ	• 本・マンガを置く
4. リラックス、 安心	• 視線が交わらない配置 ➢ 席がなるべく離れた方が安心感があるのでは • グリーン ➢ 植栽をアクセントとして散らす感じに設置 • 香り ➢ ディフューザーは部屋の入口に置いた方が入る際に香りを強く感じられるのでは。

「10代のためのフリースペース」のコンセプト

項目	内容
1. 選択の自由度	・ ふらっと立ち寄れる ・ 色々な椅子を置く ・ 色々な場を設ける ➢ 勉強できる場所、漫画などを
2. 音	・ 音楽を流す ➢ 音楽は部屋の奥から空気とし
3. 親しみ	・ 本・マンガを置く
4. リラックス、 安心	・ 視線が交わらない配置 ➢ 席がなるべく離れた方が安心感があるのでは ・ グリーン ➢ 植栽をアクセントとして散らす感じに設置 ・ 香り ➢ ディフューザーは部屋の入口に置いた方が入る際に香りを強く感じられるのでは。

このほか、次を実施または検討

エントランス

- ・ 照明を変える
- ・ 棚等の配置を変える
- ・ 書架への案内をする（掲示・ひと箱展示など）（実現できず）

中庭（光庭）

- ・ 植栽を整える

ワークショップ（2023年秋）

日 時： 11月23日（木）14時から16時30分

場 所： 八王子市中央図書館

目 的： 参加者に図書館が用意した居場所を体験、編集してもらう
ことで、若年層が求める居場所を検討するための情報を収集する

参加者： 東京都立八王子桑志高等学校 3名
中央大学文学部 1名

ワークショップのスケジュール

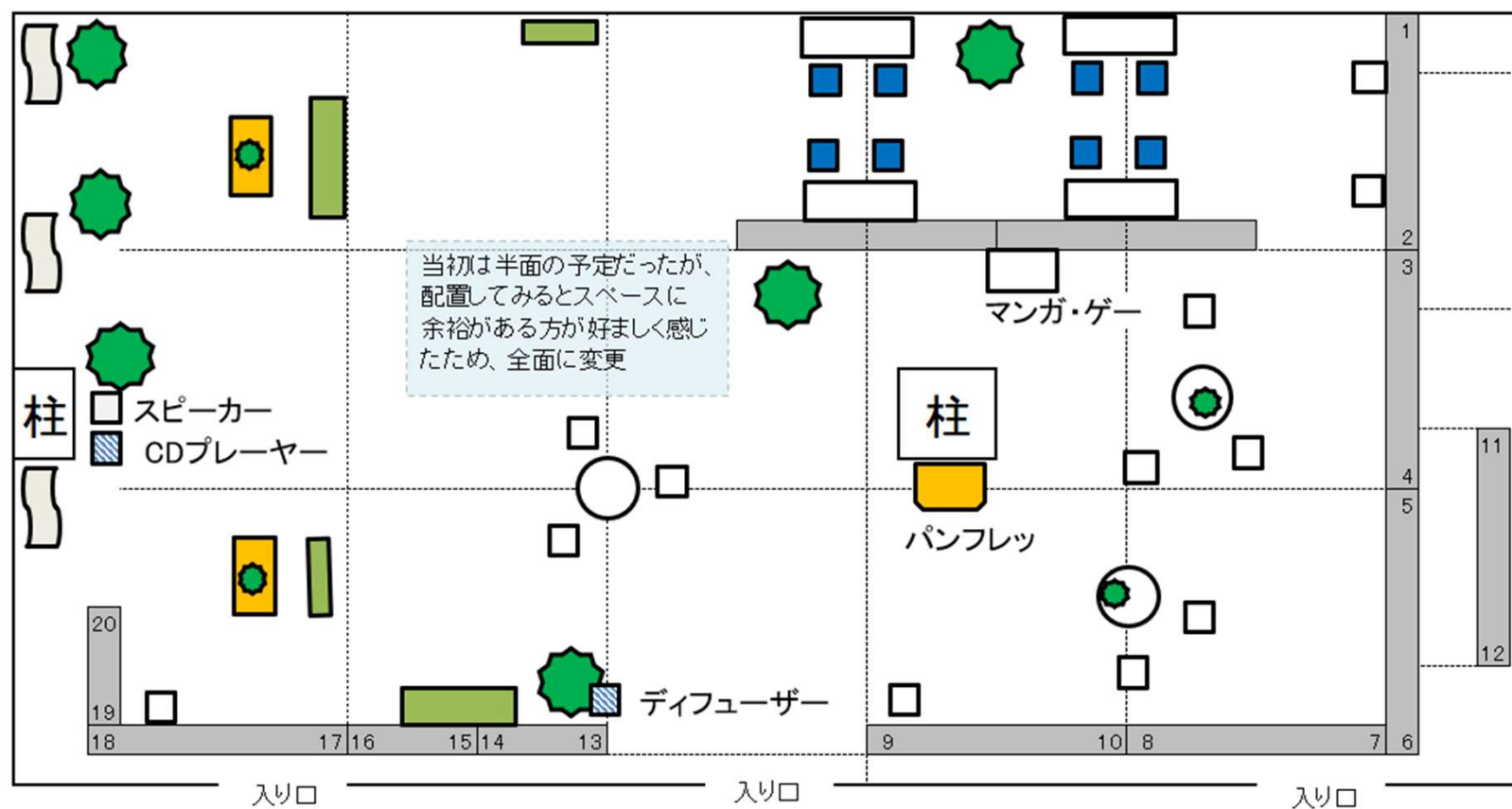
時間	活動内容
14:00-14:10	趣旨説明
14:10-14:20	フリースペースを体験する
14:20-14:40	情報共有する
14:40-15:20	模様替え
15:20-15:30	模様替えのコンセプトをまとめる
15:30-15:55	発表、意見交換
15:55-16:00	閉会

参加者は、図書館が設置したフリースペースの什器などを自由に移動させて、自分たちの居場所を編集する

図書館が考えたフリースペース

地下展示室 一括使用

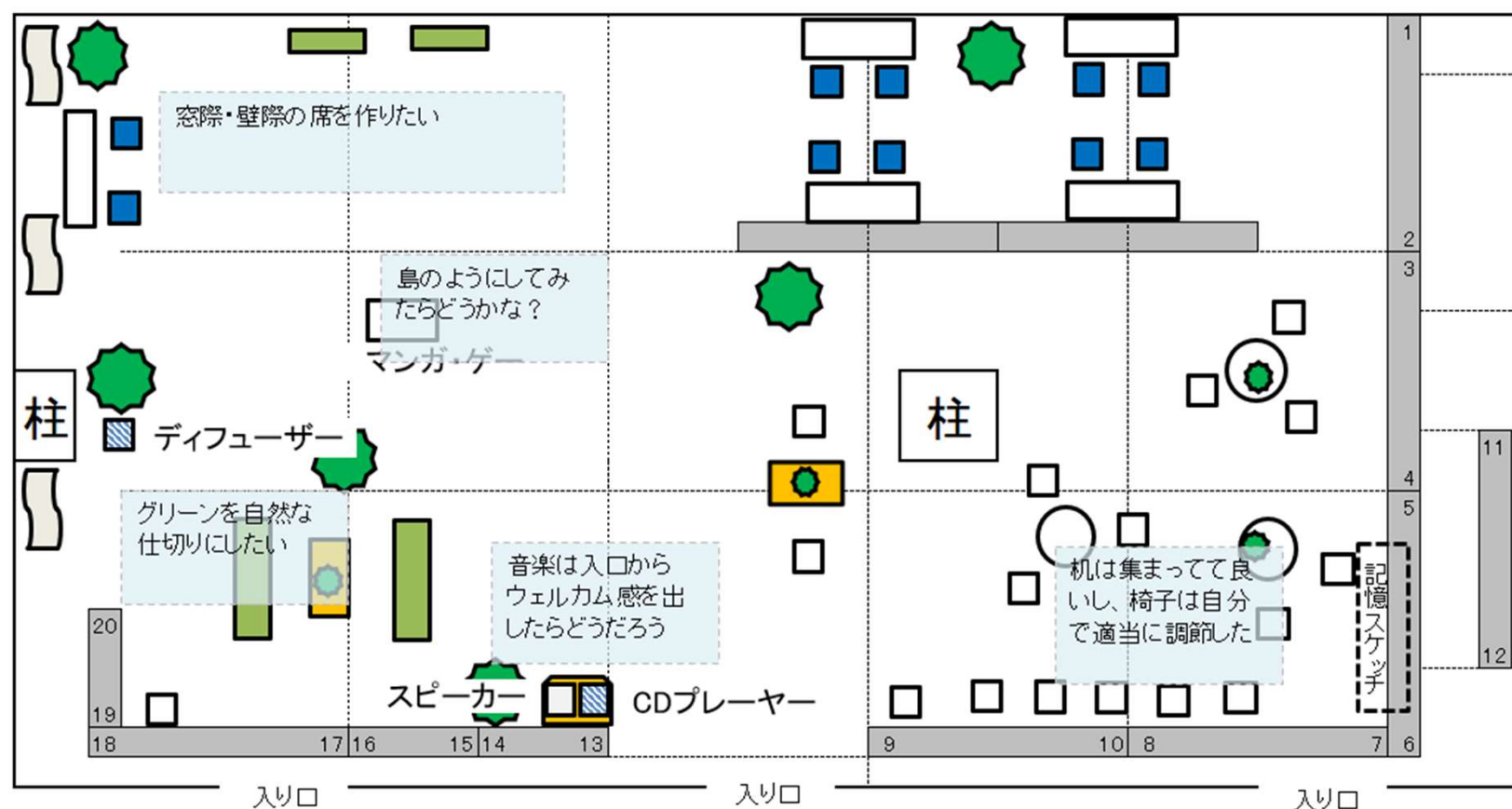
第1+2



参加者が編集したフリースペース

地下展示室 一括使用

第1+2



ワークショップ（2023年秋）およびフリースペースの 観察から見たこと

- 開放性（疎）と閉鎖性（密）が同居
- フリースペースの捉えかた
- 居心地の良さを測る指標

開放性（疎）と閉鎖性（密）が同居

開放性（疎）

- 広々とした空間
- 他人との距離を適度にとれる
- 人がいないと寂しい、入りづらい

閉鎖性（密）

- 密着感、フードコートの
- 狭いほうが落ち着ける
- 基地感
- 背後の安心感（背中合わせ、壁に一列で椅子を置くなど）
- コロナ禍を経ての密に対する不安感

フリースペースの捉えかた

■ 自習室の延長

- ・ 一人で勉強
- ・ 滞在時間が1時間以上の人も

■ リビング

- ・ 会話や飲食できる場所
- ・ 寝転がれる場所（を求める声）
- ・ 二人で来る人もちらほら
- ・ ゲームをやった形跡あり

居心地の良さを測る指標

■他者との適度な距離

- 視線の交差
- グリーンなどを用いた目隠しの効果
- ワイワイという目的には魅かれない？

■選択性

- 多様な什器を選べる
- 可動式什器で空間を演出
- 音楽を選ぶ

■飲食と会話

図書館の今後の検討課題

- サイン計画
 - フリースペースへの案内
 - 飲食や会話などフリースペース内での案内
- 什器の多様性を確保
 - 多様な椅子、座り心地のよい椅子、可動式で場を編集できる
- マンガやゲームの充実
- （飲食対策としての）フローリング
- リスク管理（目が届かない）
- 屋外の活用
 - 野点
 - 光庭から見たときの印象（グリーンの存在）

まとめ

- ワークショップをつうじて、地元の高校生、大学生を巻き込んで、10代の居場所となる図書館のありようを検討した
- 参加者の意見を元に、実際に「フリースペース」を設置し、情報の収集を行った
- これらの結果を活用して、なにをどのように計画し、実現につなげるかを引き続き検討する

ご協力いただいたみなさん

- 高校
 - 東京都立八王子桑志高等学校 副校長先生と生徒の皆さん
 - 八王子学園八王子高等学校 図書館と生徒の皆さん
- 協賛者
 - (株)山下グリーン 様（グリーン貸与）
 - 永井朋生 様（室内音楽提供）
 - 畳屋 よこうち 様（いぐさベンチ貸与）

本プロジェクトに参加した関係者

- 八王子市図書館
 - 図書館企画調整担当課長 堀内 栄史
 - 図書館課主査 草間亜紀（R5年8月まで）、村石英里
 - 図書館課主事 細野亜貴子
- 中央大学
 - 竹市佳加、鈴木涼太（以上、当時4年）、川上春香（当時3年）

ご清聴ありがとうございました
